

注目されるモモ中生有望品種‘末木白桃’

[要約]

‘末木白桃’は、‘清水白桃’に比べて果皮着色がかなり多く、肉質が劣るが、高糖度であるため、食味は勝り、大果で、生理的落果が少ない豊産な品種である。‘清水白桃’よりやや早く成熟するため、‘清水白桃’を補完する有望品種である。

研究室名	果樹研究室	連絡先	0869-55-0276（内線 230）
------	-------	-----	----------------------

[背景・ねらい]

モモ有望品種である末木白桃の特徴を把握し、導入、栽培上の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 来歴 この品種は、昭和51年山梨県東八代郡一宮町末木の岩間光高氏園において発見された‘白桃’の自然交雑実生由来の品種である。昭和61年に岩間氏本人が品種登録を出願し、昭和63年に登録品種となった。その後、登録更新を行われなかったため、平成6年に登録抹消となっている。岡山県農業総合センター農業試験場においても平成3年に導入し、現在まで品質調査を行っていた。

2. 品種特性(表1, 表2 および表3)

(1) 樹の特性

- ア. 樹姿はやや開張形で、中間形である‘清水白桃’に比べてやや開きやすい。
- ウ. 樹勢は中程度、‘清水白桃’よりやや劣る。
- オ. 生理的落果は微程度で‘清水白桃’より少ない。

(2) 花の特性

- イ. 開花期は‘清水白桃’とほぼ同時期である。
- ウ. 花粉を有する。

(3) 果実の外観

- ア. 成熟期は7月末～8月初旬（盛期7月29日、岡山県赤磐郡山陽町、平成6～13年）で‘清水白桃’より約3日早い。
- イ. 果実の大きさは300g程度で‘清水白桃’より大きい。
- ウ. 果形は扁円で、果皮の地色は乳白色、着色は‘清水白桃’よりかなり多い（全面に鮮紅色）。ただし、果実袋の種類によっては着色が少ないモモを作ることも可能である(表4)。
- エ. 核割れは‘清水白桃’より少ない。

(4) 果実の品質

- ア. 糖度は平均14.6度あり、‘清水白桃’（平均13.8度）より高い。
- イ. 肉質はやや硬く、ややち密で、‘清水白桃’より劣る。
- ウ. 果肉の繊維は‘清水白桃’より多い。
- オ. 果汁は多い。
- カ. 核は粘核である。

以上の結果、‘末木白桃’は果皮着色が多く、肉質が‘清水白桃’より劣るが、生理的落果が少なく、大果であるため、豊産な高糖度の品種である。

[成果の活用面・留意点]

1. ‘末木白桃’は着色しやすいため、着色を望む産地に適用する。
2. 袋の種類によって着色程度が異なるため、産地で統一した袋を用いるのが望ましい。

[具体的データ]

表1 過去8年間の末木白桃と清水白桃の生育期と果実特性 (平成6～13年)

品種名	開花期			成熟期			果実重 (g)	糖度 (Brix)	酸味 (pH)	渋味	食味	核割れ	生理的落果
	始	盛期	終	始	盛期	終							
末木白桃	4月10日	4月13日	4月17日	7月26日	7月29日	8月1日	309	14.6	4.6	無～少	上中	微	微
清水白桃	4月9日	4月13日	4月16日	7月26日	8月1日	8月7日	274	13.8	4.6	無～微	上下	中	少

表2 末木白桃と清水白桃の特性比較表

品 種 名	樹姿	樹冠	樹勢	花粉	結実	果実 外観	果頂部 の凹み	果皮色
末木白桃	開張	中	中	有	多	扁円	浅	乳白
清水白桃	中間	大	強	有	多	扁円	中	乳白
品 種 名	果皮 着色	裂皮	肉質	繊維	果汁	核周囲 の着色	核の 粘離	日持ち
末木白桃	多	無	軟中	や多	多	中	粘	やや良
清水白桃	難	無	軟密	少	多	強	粘	不良

表3 末木白桃の果実袋の違いと着色程度 (平成11年)

処理区	重さ (g)	糖度	pH	果頂部の着色
白色袋区 (有底、140×190)	302	13.7	4.2	3.6 (多)
無底オレンジ袋 (140×190)	312	13.9	4.3	3.4 (中)
有底オレンジ区 (140×190)	315	12.7	4.4	1.8 (少)
外白内黒袋区 (無底、150×190)	291	11.7	4.3	1.4 (微)

注) 果頂部の着色程度は5段階表示 (0:無 1:微 2:少 3:中 4:多)

[その他]

試験研究課題・事業名: 果樹導入品種の選定

予算区分: 県単

研究期間: 平成13年度

関連情報等: なし

